

講評 I

全国エリアマネジメントネットワーク会長・横浜国立大学名誉教授 小林 重敬 氏

私は第1、第4、第6グループを担当することになりまして、それぞれのグループをはしごしていました。3つのグループはそれぞれ違うテーマをお話しされていましたが、行き着くところは同じ課題を抱えていると思いました。抽象的な話なのですが、一つはやはりエリアマネジメントの公共性をどう認識するかという課題でありまして、例えば道路空間を使いエリマネの活動を行うにあたって、その活動がどこまで公共性があるという説明ができるか。要するに、内々のまちを活性化させるための活動では、どこまで公共性があるかという問いが出されます。例えば、大丸有で国際的なイベントをやる、国際的なイベントに参加している関係者だけが集まって道路利用をするというときに、警察からどこまで公共性があるのだという疑問が投げかけられる。一方で、制度に位置付けられれば公共性があるのではないかという話があります。例えばMICEは国の政策として位置づけられていますが、行政がMICEを活性化するという公的位置付けがあると、MICEのために集まった人たちが道路空間を活用することは公共性があるのではないかという話になります。

そのような複雑な公共性の意味合いをエリマネ活動では議論して、できるだけ公共性の範囲を広げていくことが重要です。国家的な公共性だけが公共性ではなくて、中間的な公共性、場合によっては小公共と言われている世界も公共性があるのだから、その公共性を認めていただいて、公共空間を活用する領域を広げていくということを考えていく必要があるのではないのでしょうか。そのことは、前例主義ということとある部分結びつきます。警察は前例主義に弱いという話があります。前例主義というのは、色々なところでやるとなんとなく公共性が出てくるというものです。ここでもやっている、あそこでもやっているという話があって、そこで公共性を獲得する。公共性についての議論は、前例主義の議論とおそらく結びついてくるという感じがしました。すなわち、前例というのをどのように考えるのかということです。

もう一点、エリアマネジメントは、時間軸で考えると、成果を生み出すには結構時間がかかります。1年やったからこの地域が活性化するというなんてことはありえません。5年、場合によっては10年、20年と活動をやっていくことで少しずつ効果が現れてきて、関係した人たちが5年経ってこうなった、10年経ってこうなったとなります。しかし、関わっている人材を考えてみると、2年から3年で人事交代があり、次の人が来ると初めから学習し直さないといけないという問題があります。あるいは、大きな枠組みでエリマネを支えている企業の社長さんから、そんなことをやって何の効果も上がらない、2年やっているが効果が上がらないのではないかと問われた時に、エリマネというのは5年10年という時間の中で考えてくださいというような話ができないといけません。公共性と時間軸、あるいは代表性

の議論と繋がるかもしれませんが、このようなことをエリマネとして議論していきましようということです。以上です。

講評Ⅱ

全国エリアマネジメントネットワーク監査役・京都府立大学名誉教授 青山公三氏

簡単に4点申し上げたいと思います。テーブル1、テーブル2、テーブル6に関連して、公共の空地、公園、道路空間、河川空間をどうやって使っていくかというお話がありました。NYでは面白い例として、役所と使い方の契約をし、常時何かに使わせるということではなく、ある1年間で週末は30%、ウィークデイは40%使っていくというような契約を役所と結び、その代わりに契約を結んだら BID あるいはエリマネ団体は収益事業をやってもいいという仕掛けがあります。例えばNYのハイラインやブライアントパークでは、公園の中で収益事業ができるような仕組みを作っています。テーブル6にも関連する話ですが、場を提供し、契約で使い方をきちんと決めていく。その代わりにクローズドの収益事業をやってはいけない。必ず誰が入ってきても良いものをとという契約の内容で使わせるという仕組みが良いのではないかということが第1点です。

2点目が組織のテーブル4で議論されたことですが、やはり人事異動がある中で、人事異動をしないのは事務局の女性職員です。テーブル4でエリマネ女子会ができて情報交流をしているというお話がありましたが、それをぜひやりましょう。今度の4月に女性職員と一緒にアメリカに調査に行こうという話になっています。

そして3番目の評価についてですが、これは皆さんが見える化する。とにかく色々な BID 団体が見える化を一生懸命やっています。

最後に、行政は常に民間と一緒に連携して話し合いをする、制度化するということが大事だと思います。行政の担当者は替わっていきますので、人が替わってもその制度がきちんと動いていくという仕組みになっていけば、必ず組織の議論はつながっていくと思います。以上です。ありがとうございました。